

令和 2（2020）年度 資源評価調査報告書

種名	ハツメ	対象水域	日本海
担当機関名	水産資源研究所 底魚資源部	協力機関名	青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産研究所、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター

1. 調査の概要

青森県日本海側から島根県にいたる各府県がまとめた漁業種別漁獲量をもとに、2019年の漁獲量を求めるとともに、主要な産地と漁業種類を抽出し、主漁期を調べた。主要産地である石川県の漁獲量から現在の漁獲動向を判断した。

2. 漁業の概要

2019年の漁獲量は石川県で最も多く、全体の58%を占める（図1）。石川県においては刺網と底びき網による漁獲が主体であり（図2）、春～秋季に多く漁獲され、冬季には少ない（図3）。漁獲量は次いで鳥取県と山形県が多い。石川県を除く府県では、底びき網（沖合底びき網、小型底びき網）による漁獲が大部分を占めるが、その漁獲量の多寡から混獲程度に留まると考えられる。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：水深 100～303 m。北海道～山口県の日本海沿岸、北海道オホーツク海沿岸、北海道～福島県の太平洋側沿岸、房総半島沖、希に相模湾。朝鮮半島東岸中部～間宮海峡、オホーツク海（中坊・甲斐 2013）。
- (2) 年齢・成長：不明
- (3) 成熟・産卵：本種は胎生魚である。産仔期は明らかでないが、日本海における浮遊仔稚魚の出現期は 8～11 月にかけてであり、北部で早く、南部で遅い（永沢ほか 2014）。
- (4) 被捕食関係：不明

4. 資源状態

漁獲動向の判断には、漁獲量が最も多い石川県の漁獲量を用いた(図2)。最近5年間(2015~2019年)の漁獲量は増減しており、漁獲動向は横ばいと考えられる。

5. 資源回復などに関するコメント

資源回復のための取り組みは行われていない。生物学的特性や資源構造には不明な点が多く、さらなる情報収集が必要である。また、底びき網漁業の漁獲成績報告書に基づき、本種は主対象種ではなく混獲種であることを十分に考慮して漁獲・資源動向を的確に示す資源量指標値を算出することが必要である。

引用文献

永沢亨・小嶋純一・沖山宗雄(2014) ハツメ. pp. 597-598. In: 沖山宗雄(編). 日本産稚魚図鑑 第二版. 東海大学出版会, 秦野. 1639 pp.

中坊徹次・甲斐嘉晃(2013) メバル科. pp. 668-681. In: 中坊徹次(編). 日本産魚類検索全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野. xlix+2428 pp.

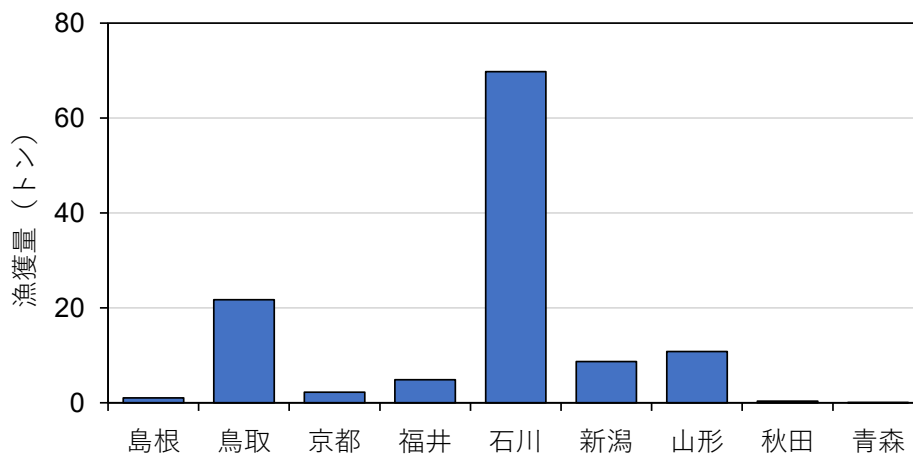


図1. 各府県におけるハツメの漁獲量(2019年)

富山県と兵庫県は得られていない。

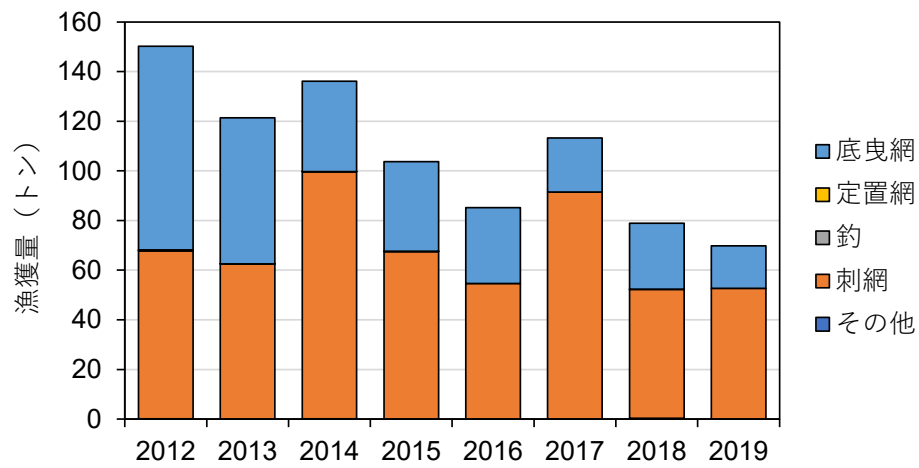


図2. 石川県におけるハツメの漁業種類別漁獲量の推移

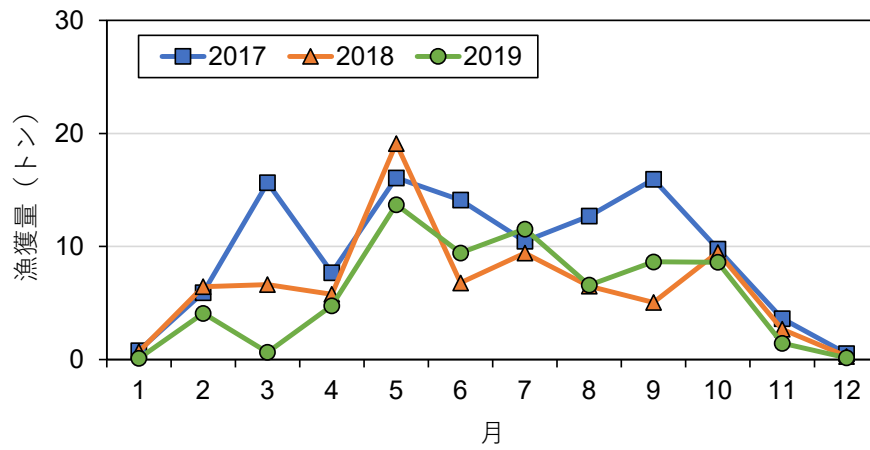


図3. 石川県におけるハツメの月別漁獲量 (2017~2019年)